

平安京左京六条四坊八町跡（京都市下京区杉屋町）

株式会社四門 京都支店 辻 広志（士－059）

1. 調査の概要

平安京左京六条四坊八町跡の調査は、京都市下京区松原通堺町東入る杉屋町288-1～3、289-1・2他で、ホテル建設に伴い実施した。現地調査は令和元年11月11日～令和2年1月30日の間に、184㎡×4面を調査した。その後、整理調査を令和2年8月31日までに行い、報告書を刊行した。

2. 調査成果の概要

調査地は、平安京左京の五条大路南側（北頬）にあたるが、隣接地での調査例は少なく、五条大路南側溝の検出が期待されていた。

発掘調査における主な成果は、調査区北側の五条大路南側溝が、平安京遷都（794年）後の道路整備において初めて設けられて以降、2回にわたる大路の整備が、何れも鴨川の東側（鴨東）に存在した政治拠点の盛衰に関わっていたことを、遺構や遺物から具体的に確認することができたことにある。

当初の五条大路南側溝は、平安京遷都後、11世紀前半には埋没してしまう。五条大路の再整備は、平安時代末の11世紀末～12世紀後半で、平氏の隆盛と六波羅館の存在、平氏の信頼が厚い公家の邸第がこの大路沿いに集住したことにより実施された。この時期に、初めて調査地内に街路に面する広義の町家を確認できた。

五条大路の再整備は、承久の乱（1221）後に鎌倉幕府によって設けられた六波羅探題・六波羅御所への街路としての整備であったと考えられる。これは、現在の五条大路の通り名である松原通の元となった、松を街路樹とする街路整備であった可能性がある。

しかし、室町時代には人家もなくなり急速に衰退し、戦国時代に到りようやく鑄造関係の職人町となり、江戸時代を通して鑄造関係の職人や商人の町であったことが明らかとなった。

この他に戦国末・江戸時代前期にあたる8期の遺物で、井戸023SEから出土した笏谷石製方形盤から、これまで余り重要視されてこなかった市内の笏谷石製出土品を集成し都での受容を考察した「京都市内の笏谷石製品」（古川登）、鑄造関係土坑136SX・132SX・012SX等の遺構から出土した柄鏡粗型・鏡真土型・屏風・埴塙・取鍋・羽口等から、この時期の柄鏡の革新的な生産方法とその特徴を考察した「出土鑄造遺物からみた柄鏡の生産量について」（佐々木英二）、土坑136SXから出土した赤色顔料が厚く付着した播鉢の分析から、調査地での鉄丹ベンガラ生産を明らかにした「出土赤色顔料の分析調査」（北野信彦）等を納めた。

3. まとめ

今回の成果は、左京の五条大路沿いの盛衰が、五条大橋東の六波羅を拠点とした平氏や鎌倉幕府の政権、豊臣秀吉の五条大橋の付け替えや方広寺の建設など、鴨東の盛衰に大きく左右されていたことが明らかになった。さらに、今日に至るまでの町の形成過程を定点的に詳細に解明できたものと考えている。

《参考文献》

（株）四門 2020 『平安京六条四坊八町跡—京都市下京区松原通堺町東入る杉屋町288-1～3、289-1・2他の発掘調査—』

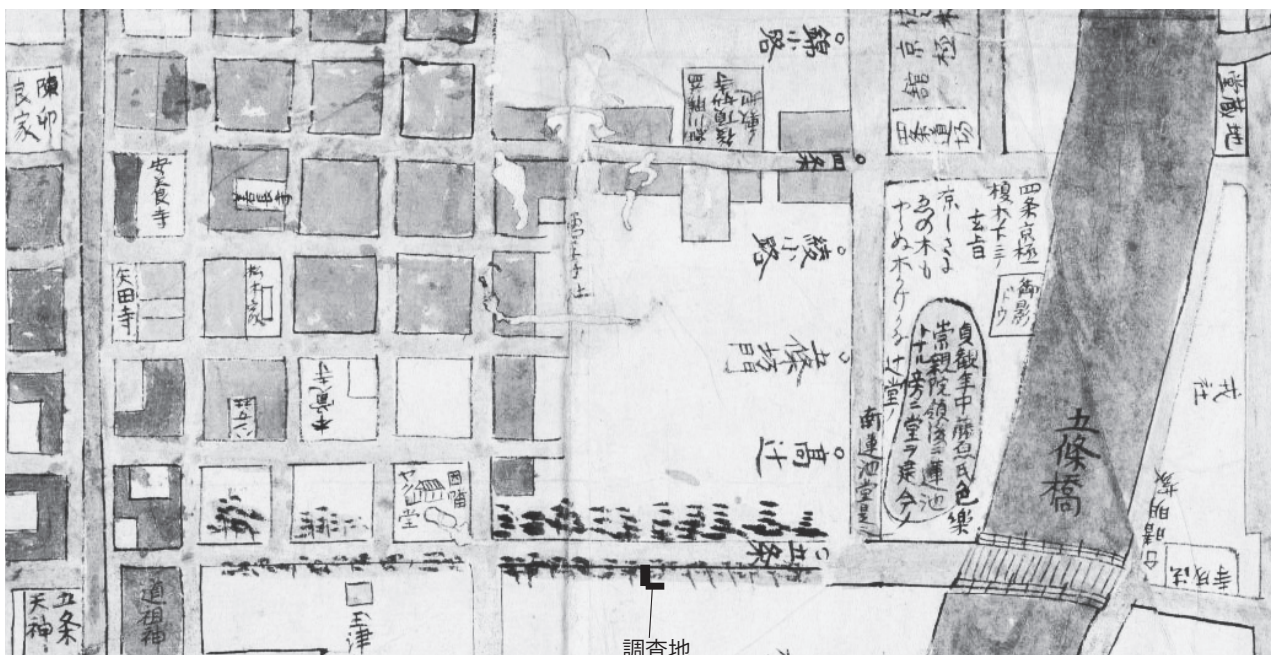


図1 応仁元年～天正期の京都を描く『中昔京師地圖』（国立国会図書館蔵）より五条大路周辺と調査地

※ ()内は、想定される遺構名																			
遺構面	時期	時代	小森編年 (京編年)	美年代	主要な遺構														
					洪水堆積層・ 盛土層	建物	堀 (堀)	五条大路 南側溝	溝・溝	井戸	土坑・不明遺構等	縁造関係	穴蔵	柱穴					
4 面	1期	平安	京Ⅱ中	平安前期(794)	220				120										
			京Ⅱ新						120										
			京Ⅱ古						120			201							
			京Ⅱ中						120										
			京Ⅱ新						120										
			京Ⅱ古						120										
			京Ⅱ中																
			京Ⅱ新																
			京Ⅱ古																
11世紀前半頃の洪水					6-7階(ツグミ遺構)														
3 面	2期	鎌倉	京Ⅲ中	鎌倉前期(1185)					(090)										
			京Ⅲ新						(090)										
			京Ⅲ古						090		194								
			京Ⅲ中						090						061・178 (小柱穴跡)				
			京Ⅲ新						098	090		188							
			京Ⅲ古																
			大塚遺構(1177)																
			京Ⅲ中			鎌倉前期(1185)						040			(小柱穴跡)				
			京Ⅲ新			鎌倉前期(1185)						143			(小柱穴跡)				
			京Ⅲ古			鎌倉前期(1185)				041		070			(小柱穴跡)				
2 面	7期	室町	京Ⅳ中	室町前期(1368)					041						(小柱穴跡)				
			京Ⅳ新						041			048・047			(小柱穴跡)				
			京Ⅳ古																
			京Ⅳ中																
			京Ⅳ新																
			京Ⅳ古																
			京Ⅳ中						(040)			(082)	044		(小柱穴跡)				
			京Ⅳ新						(082)			045			(小柱穴跡)				
			京Ⅳ古						042		(089)	043・073			(小柱穴跡)				
			京Ⅳ中								(089)	039			(小柱穴跡)				
14世紀初頃の洪水(1308-1309)																			
2 面	7期	戦国	京Ⅳ中	戦国前期(1467-1477)	034				021	022	027-033-035			025・1・7 (小柱穴跡)					
			京Ⅳ新						022	039									
			大塚遺構の堀(1536)																
			京Ⅳ中			江戸	江戸前期(1603)				121	022							
			京Ⅳ新					鎌倉遺構入倉(1585)	021	022									
			京Ⅳ古					大塚の町割・寺町形成(1590) 堀土塁跡及び海幸寺遺構(1591) 堀川遺構(1603)	021	022									
			京Ⅳ中						021	121	136								
			京Ⅳ新						021	121	024			128・136					
			京Ⅳ古						021	121	024-038			128・130・136					
			京Ⅳ中						021	121	036			129・136					
京Ⅳ新		021	121	036-135					132・136										
京Ⅳ古		021	121・023																
京Ⅳ中		023	028					136											
14世紀前半頃の洪水																			
1 面	9期	江戸	京Ⅳ古	江戸前期(1603)					023	004-005-006									
			京Ⅳ中					023	004-007										
大塚の京極大塚(1788)					2-30階														
10期	近代	明治	京Ⅳ新	明治前期(1868)	009-010				002	011			141						
			京Ⅳ古					002	037			014-141							
			京Ⅳ中					002	017-138			014	008						
			京Ⅳ新																
大塚の京極大塚(1864)					1-18階														
11期	近代	大正	京Ⅳ新	大正前期(1912-1926)					001・003-122	012-013-015-123-124-125-126-133									
			京Ⅳ中																

表 1 遺構時期別変遷表

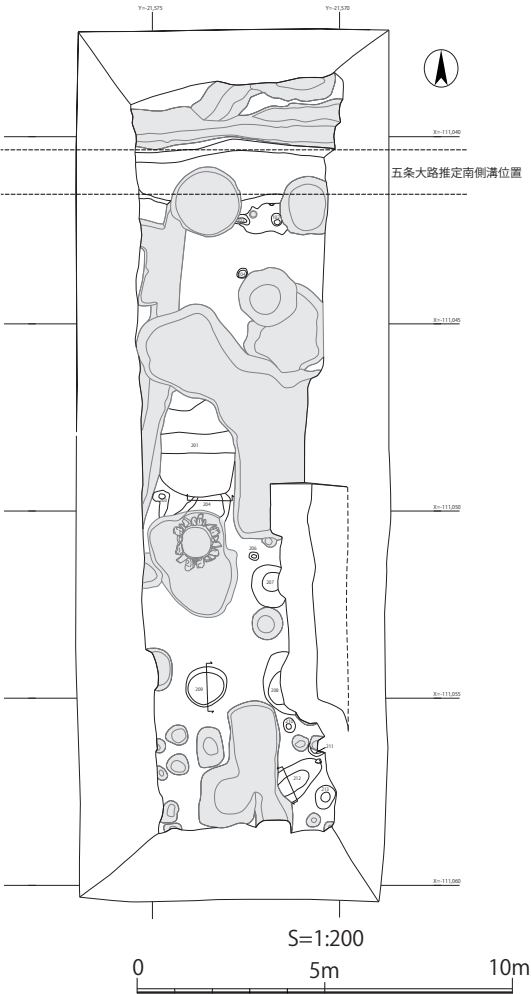


図 2 1期遺構配置図



写真 1 五条大路南側溝検出状況(西より)

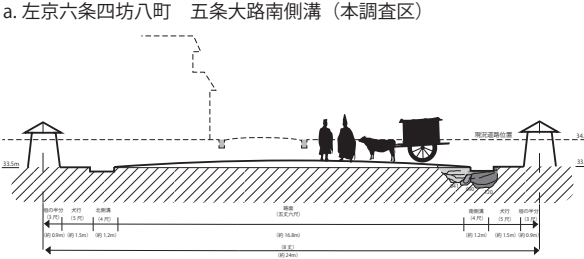


図 3 五条大路横断復元図

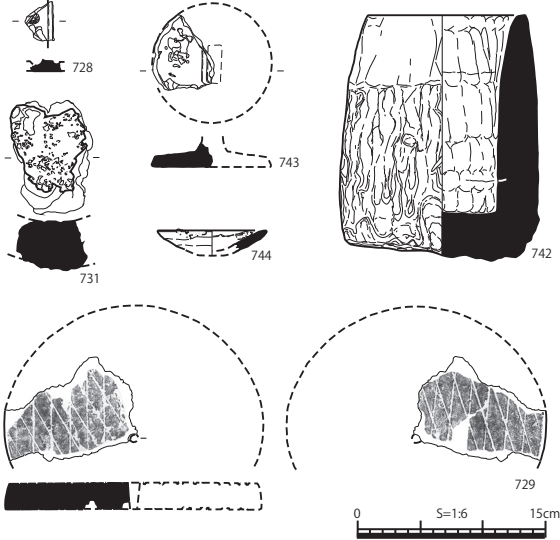


図 4 鏡造品